



シナプス

～園長室だより～



令和4年4月

あかるく・やさしく・たくましく！

■入園・進級おめでとうございます！

桜の季節となりました。コロナ禍であろうとなかろうと、時代が移り変わろうとも、桜は季節と共にその美しい花を咲かせ、人々を魅了してくれます。日本人ならば、桜で連想するのは、様々な意味において出会いと別れ、そして新たな門出ではないでしょうか。やや忘れ去られている感がありますが、そんな日本人の体に染み込んだ季節の感覚に切り込んだのが「学校秋入学」論です。その賛否については色々なご意見があろうかと思いますが、このコロナパンデミックの中で一気に浮上した画期的な議論であったことに違いはありません。結果、ご承知の通りその後に変わりはありませんが・・・。

思えば、このコロナパンデミックをはじめ、ウクライナにおける軍事侵攻、地球温暖化問題等々、この世の中に散見する問題はすべて正解のない問題ばかりです。言葉ではわかっていたつもりですが、このコロナパンデミック以降、正にその正解のない問題に立ち向かう力が試されているような気がします。これからの社会にとって必要な力として以前から言われてはいたことですが、改めて顕在化したことにより、その難しさも同時に感じるどころです。

この正解のない問題を考える力をコロナパンデミックで考えてみると、世界・国・地域・各種団体とそれぞれに解決策を講じ、コロナを何とか封じ込めようと努力してきましたが、結果はコロナも変異を続けつつ、今日の第6波に至っています。もちろん、正解がありませんので、現状が正解だったのか、それとも他の正解があったのかすらもわからない、答え合わせのできない問題ではありますが、ただひとつ言えることは、このコロナパン

デミックに対して、一人ひとりが考え、それぞれができる最善と思われる対応をし、感染対策を行った結果だということです。

コロナ禍における子どもたちの環境に対して、運動不足やマスク着用による脳や心の発達への影響、人間関係の希薄化に伴うコミュニケーション能力への影響等、悲観的な意見も多くありました。もちろん、そういったことも事実であり、注視すべきところではありますが、それらを踏まえて、私たち大人が子どもたちとどう関わるかという心構えが大切ではないでしょうか。運動不足が心配であれば、できる運動をすればいいし、マスク着用による子どもたちの認知面を心配するのであれば、より表情豊かに、大きなジェスチャーをとることもひとつです。「目は口ほどにものを言う」という言葉があるように、ひょっとすると、表情以上に子どもたちは目から様々な情報を読み取っているかも知れません。得るものがあれば、失うものがあるように、常に物事は表裏一体です。今、自分が置かれている立場で何ができるのか。何が最善なのかを考え、子どもたちと共に、今を楽しめればと思いますし、その感情こそが、子どもたちの発達に大きく寄与するものだと考えています。

最後になりますが、まだもうしばらくコロナ禍は続きそうです。改めまして、保護者の皆さまの引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

園長 野口 大仁